



京都大学

教育学研究科ミニ・シンポジウム

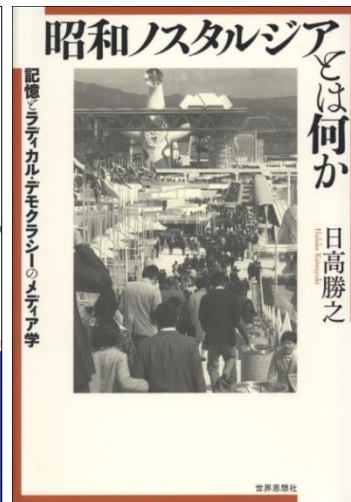
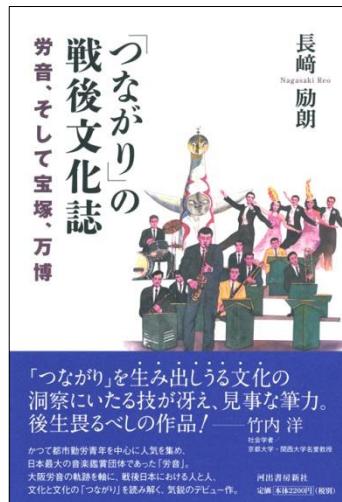
Graduate School of Education, and Faculty of Education, Kyoto University

3月6日 月曜日

15:00~18:00

教育学部第1会議室(1F)

勤労青年文化のメディア と教育/教養をめぐる



プログラム(15:00~18:00)

趣旨説明(佐藤卓己): 「学生」が「青年」ではなかった時代の教育/教養

第1報告(長崎励朗): 『「働く青年」と教養の戦後史』を読んで

第2報告(日高勝之): 『青年の主張—まなざしのメディア史』を読んで

—休憩(16:30~45)—

パネル討議(司会:福間良明): 「勤労青年の記憶とメディア—炭坑映画・労音・人生雑誌・青年の主張から—」

少なくとも1970年代まで日本社会には経済的な理由で進学を断念し、仕事に就いた若者が多数存在していた。勤労する青年たちは「学生」とは異なるメディア文化と教養空間を形成していた。このミニ・シンポでは最近著、福間良明『働く青年』と教養の戦後史—「人生雑誌」と読者のゆくえ』(筑摩書房2017年)および佐藤卓己『青年の主張—まなざしのメディア史』(河出書房新社2017年)を素材として、勤労「青年」文化研究の射程を考える。

報告者は労音(勤労者音楽協会)を論じた『「つながり」の戦後文化誌—労音、そして宝塚、万博』(河出書房新社2013年)がある長崎励朗(桃山学院大学准教授)、「炭鉱映画」なども扱った『昭和ノスタルジアとは何か—記憶とラディカル・デモクラシーのメディア学』(世界思想社2014年)などで知られる日高勝之(立命館大学教授)である。報告後、4名のパネル討議、さらに会場討議によって、社会教育学的なメディア研究の可能性を模索する。参加自由(無料)。

連絡先: 佐藤卓己(メディア文化論研究室: sato.takumi.5e@kyoto-u.ac.jp)

*シンポジウム終了後、懇親会を予定しております。参加希望者は事前に佐藤まで連絡ください。